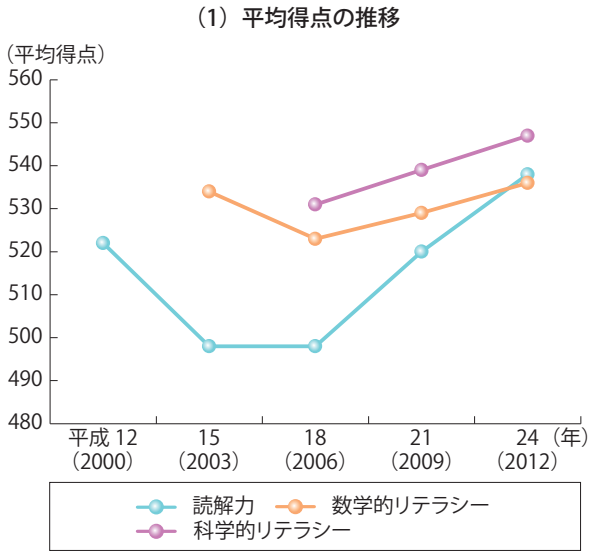


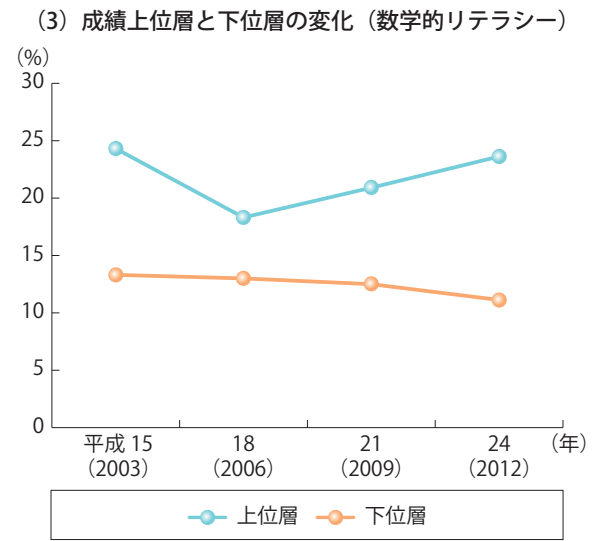
れる。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーのそれぞれについて、平成24（2012）年には、それ以前と比べ平均得点が上昇し、OECD加盟国での順位をみると、読解力と科学的リテラシーは1位、数学的リテラシーは2位となっている。また、成績の下位層が減少し、上位層が増加している<sup>10</sup>。（第1-3-10図）

第1-3-10図 OECD生徒の学習到達度調査（PISA）



(2) 順位 (平成24年)

	OECD加盟国中 (34か国)	全参加国・地域中 (65か国・地域)
読解力	1位	4位
数学的リテラシー	2位	7位
科学的リテラシー	1位	4位



(出典) 経済協力開発機構 (OECD) 「生徒の学習到達度調査 (PISA)」  
 (注) 1. 義務教育修了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみる学習到達度調査。2012年は65か国・地域 (OECD加盟国34, 非加盟国・地域31)、約51万人の生徒を対象に調査を実施。  
 2. 上記 (3) のグラフでは、習熟度レベル5以上の割合を「上位層」、同じくレベル1以下の割合を「下位層」としている。

国際教育到達度評価学会 (IEA) の「国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS)」によると、平成23 (2011) 年には、小学校の算数・理科の平均得点が平成19 (2007) 年より有意に上昇するとともに、習熟度の低い者の割合が低下し、習熟度の高い者の割合が上昇している。中学校の数学・理科の平均得点は平成19年と同程度だが、習熟度の高い者の割合が高まっている。（第1-3-11表）

小学校6年生と中学校3年生を対象に文部科学省が行っている「全国学力・学習状況調査」の平成25 (2013) 年度の結果<sup>11</sup>によると、小学校6年生の国語では、複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関連付けたりしながら自分の考えを書くことなどが、算数では、図や表を観察して問題の解決に必要な情報を選択することなどが、課題とされている。中学校3年生の国語では、話合いの方向性を捉えて話すことや文章の構成や表現の特徴について自分の考えをもつことなどが、数学では、数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることなど<sup>12</sup>が、課題として指摘されている。

第1-3-11表 国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS)

		平成7年 (1995年)	平成11年 (1999年)	平成14年 (2003年)	平成19年 (2007年)	平成23年 (2011年)
小学校 4年生	算数	567点 3位/26か国	(実施せず)	565点 3位/25か国	568点 4位/36か国	585点 5位/50か国
	理科	553点 2位/26か国	(実施せず)	543点 3位/25か国	548点 4位/36か国	559点 4位/50か国
中学校 2年生	数学	581点 3位/41か国	579点 5位/38か国	570点 5位/46か国	570点 5位/49か国	570点 5位/42か国
	理科	554点 3位/41か国	550点 4位/38か国	552点 6位/46か国	554点 3位/49か国	558点 4位/42か国

(出典) 国際教育到達度評価学会 (IEA) 「国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS)」  
 (注) 小・中学生の算数・数学、理科の到達度を国際的な尺度によって測定し、学習環境などとの関係を明らかにするための調査。小学校は50か国・地域 (約26万人)、中学校は42か国・地域 (約24万人) が参加。

10 第1-3-10図は数学的リテラシーを例にグラフ化している。  
 11 調査結果の概要などは文部科学省国立教育政策研究所ホームページ (<http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukou/>) を参照。  
 12 例えば、長方形の対角線の長さが等しいことを記号を用いて表すことなどが挙げられる。

## (2) 学習状況

平日に学校以外で1日1時間以上勉強している小学校6年生・中学校3年生の割合は、若干の上昇傾向。平日に30分以上読書する者は、小学校6年生の4割弱、中学校3年生の3割強。

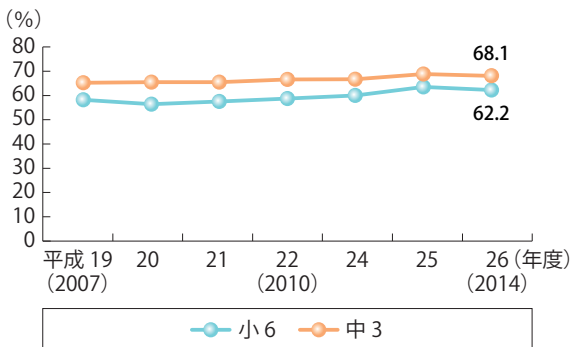
平日に学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強している小学校6年生・中学校3年生の割合は、平成26(2014)年度にはそれぞれ62.2%、68.1%と前年からやや低下したものの、趨勢的には若干の上昇傾向となっている。学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している小学校6年生・中学校3年生の割合も同様に、平成26年度にはそれぞれ56.2%、68.0%と前年からやや低下あるいは横ばいとなったものの、趨勢的には若干の上昇傾向となっている。(第1-3-12図(1)(2))

平日の読書時間をみると、1日当たり30分以上読書する小学校6年生・中学校3年生の割合は、平成26年度にはそれぞれ、38.4%、31.7%と、ここ数年上昇している。(第1-3-12図(3))

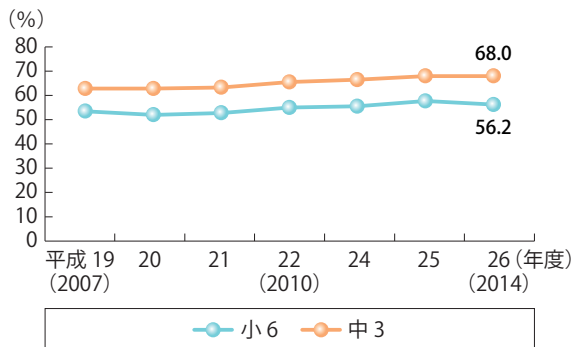
学習塾(家庭教師含む)で勉強している小学校6年生・中学校3年生の割合は、平成26年度にはそれぞれ、48.0%、60.0%となっている。(第1-3-12図(4))

第1-3-12図 小学生・中学生の学習状況

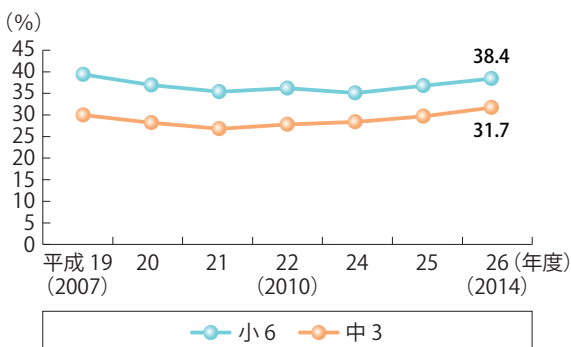
(1) 学校の授業以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強する



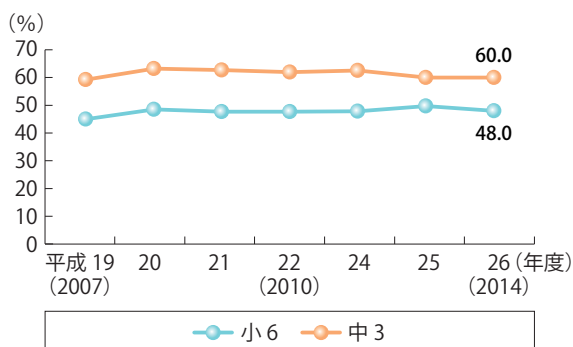
(2) 学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強する



(3) 平日、1日当たり30分以上読書する



(4) 学習塾(家庭教師を含む)で勉強している



(出典) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」

(注) 1. (1)(2)は学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。(3)は教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。

2. 平成23年度は東日本大震災の影響などにより調査が実施されていない。

3. (4)は「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している」、「学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している」、「これら両方の内容を勉強している」、「これらの内容のどちらともいえない」と回答した子どもの割合。

## (3) 学習に対する意識

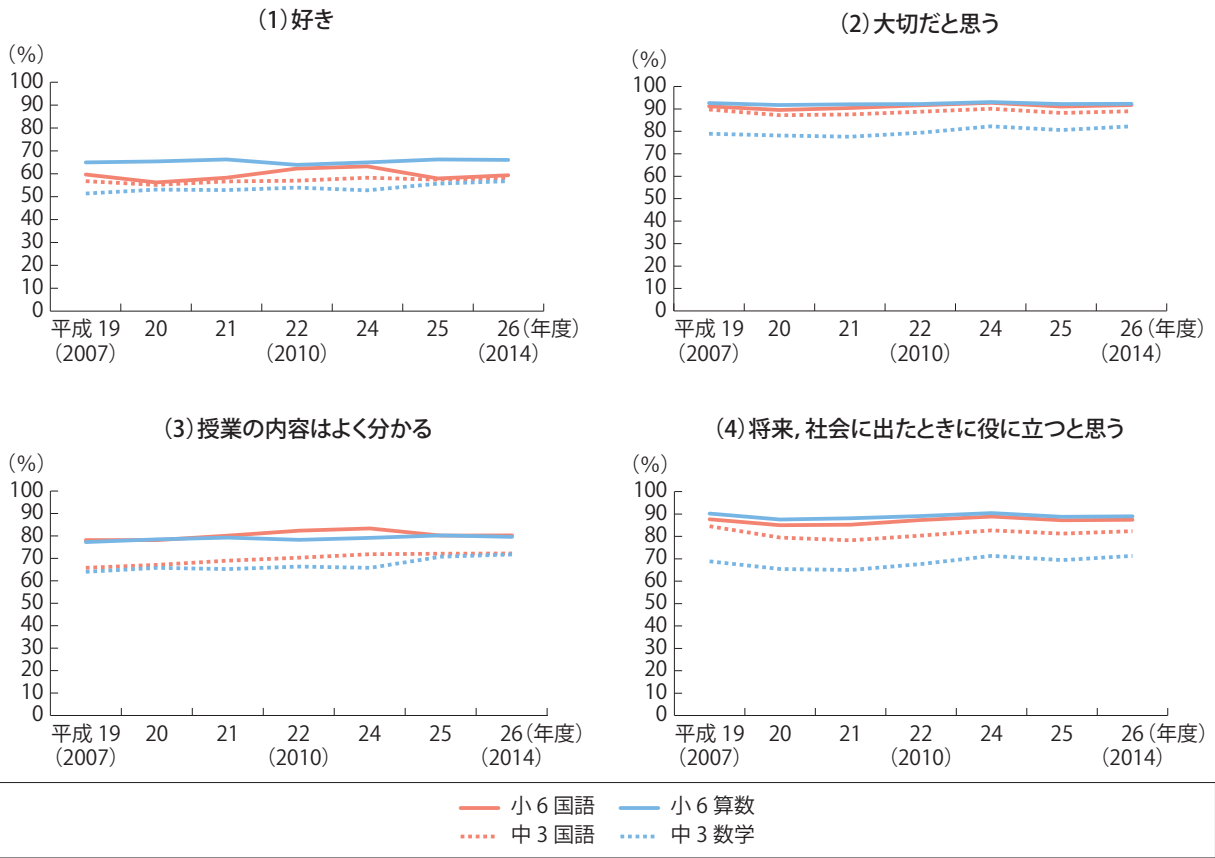
中学生になると理数離れがみられ、理数系科目への嗜好は国際平均より低い。

学習に対する意識をみると、「好き」「大切だと思う」「授業の内容がよく分かる」「将来役に立つ」と回答した子供の割合は、概してみれば大きな変化はみられない。算数・数学については、中学校3年生では小学校6年生と比べその割合が比較的低くなっている。(第1-3-13図)

また、数学・理科の勉強が楽しい、希望する仕事につくために数学・理科で良い成績を取る必要があ

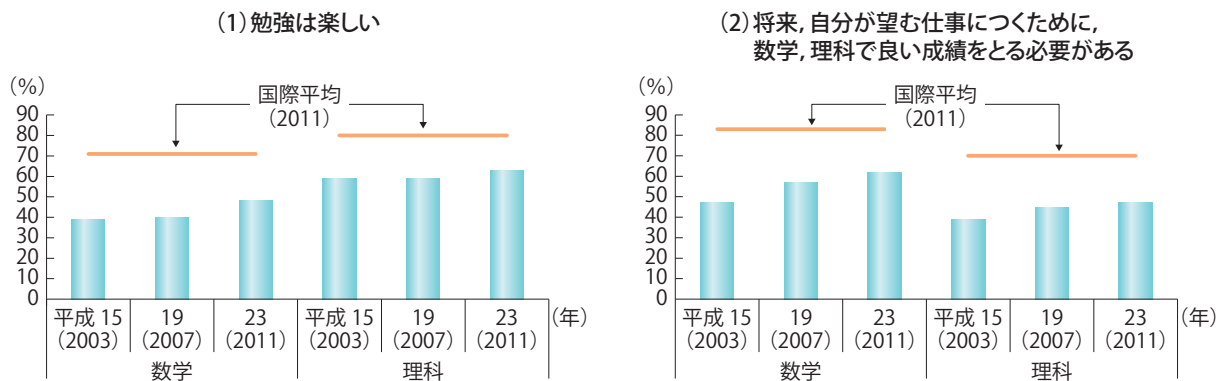
る、と回答した中学生の割合は上昇傾向にあるものの、国際平均よりも低い。(第1-3-14図)

第1-3-13図 小学生・中学生の学習に対する意識



(出典) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
 (注) 1. (1)～(4)は各設問に対し肯定的な回答(例:当てはまる, どちらかと言えば当てはまる)をした者の割合。(5)は設問に対し「難しいと思う」「どちらかといえば、難しいと思う」と答えた者の割合。  
 2. 平成23年度は東日本大震災の影響などにより調査が実施されていない。

第1-3-14図 理数科目への意識(国際比較)



(出典) 国際教育到達度評価学会(IEA)「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)」

### 3 学校に係る諸問題

#### (1) いじめ

いじめは常に起こっており、特定のいじめられっ子やいじめっ子の問題ではなく被害者も加害者も入れ替わる。

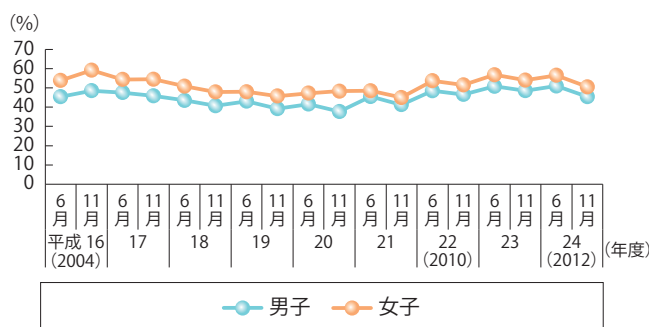
最も典型的ないじめ行為である「仲間はずれ・無視・陰口」について、半年ごとの被害経験率（その期間に一度でも被害を受けたことのある児童の割合）をみると、男女ともにおおむね半数程度の子供が被害を経験している。被害経験の割合は経年的に一定程度を占めていることから、いじめは常に起こっているものと考えられる。（第1-3-15図（1））

ただし、一定程度で常に起きているからといって、被害者や加害者が特定の同じ児童生徒とは限らない。多くの子供が被害も加害も経験する形で入れ替わりながら、いじめは進行している。

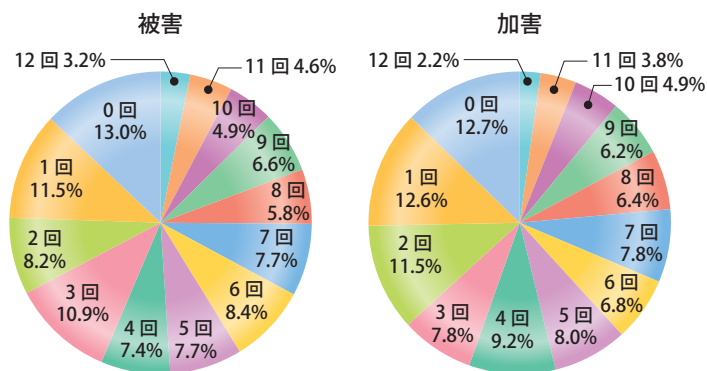
小学校4年生から中学校3年生になるまでの6年間（調査12回）に、一度も被害を経験しない者は13.0%，加害を経験しない者は12.7%に過ぎない。また、4割前後の子供が6年間で被害・加害ともに6回以上経験している。（第1-3-15図（2））

第1-3-15図 いじめの発生実態

(1) 小学校における被害経験率の推移



(2) 平成19(2007)年度の小学4年生が中学3年生になるまでの6年間12回分の「仲間はずれ・無視・陰口」の経験回数



(出典) 文部科学省国立教育政策研究所 (2013) 「いじめ追跡調査2010-2012」

(注) 1. 調査の概要は以下のとおり。

目的：匿名性を維持しつつ個人を特定できる形で小学校から中学校にかけて追跡方法：子供自らが回答する自記式質問紙調査  
 対象：サンプル地点として抽出された中学校区の小学校4年生から中学校3年生までの全ての子供（1学年当たり約800名）  
 時期：各年度の6月末と11月末の2回

2. (1)と(2)は、新学期から3か月弱の間に「仲間はずれにされたり、無視されたり、陰で悪口を言われたりした」体験についての回答をグラフ化。「週1回以上」「月に2~3回」「今までに1~2回」の回答割合の集計値。

学校により認知されたいじめは、平成25(2013)年度は185,803件と、前年度(198,109件)から若干減少した(第1-3-16図(1))。小学校では118,748件(平成24年度117,384件)、中学校では55,248件(同63,634件)、高校では11,039件(同16,274件)であり、前年度と比較すると小学校は引き続き増加している。学年別の構成割合をみると、中学校1年生が14.8%で最も多い(第1-3-16図(2))。これらのうち、学校が警察に相談・通報した件数は971件(小学校162件、中学校635件、高校161件、特別支援学校13件)である。